

富山市の公共施設をめぐる 現状と課題について



(c)TOYAMA CITY/DLE

課題1 施設の老朽化が進んでいる！

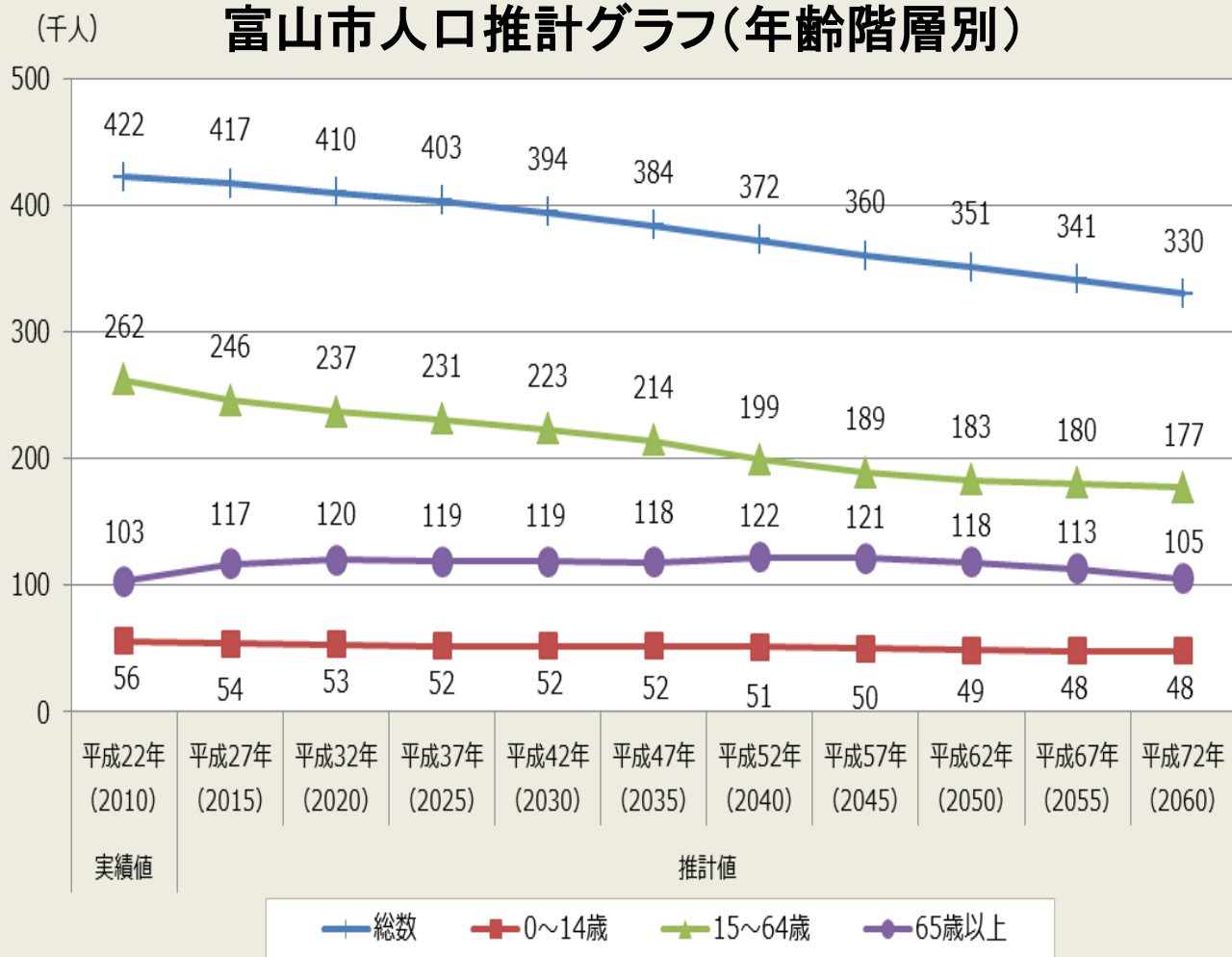
今ある施設を維持するだけでも、
今後40年間で約3,300億円、
1年間で約82億円不足してしまいます！

公共建築物の更新費用試算



課題2 少子高齢化と人口減少で財政が厳しくなる！

富山市人口推計グラフ(年齢階層別)



40年後には？

大沢野地域
2015 (H27年)
21,582人

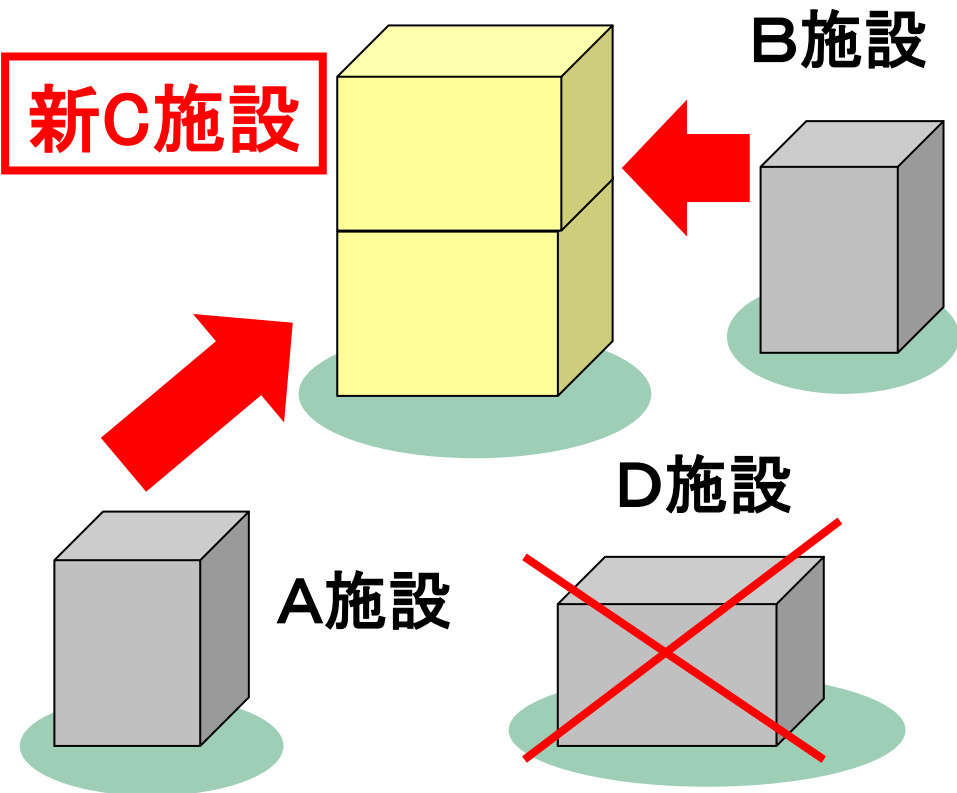


約4割減

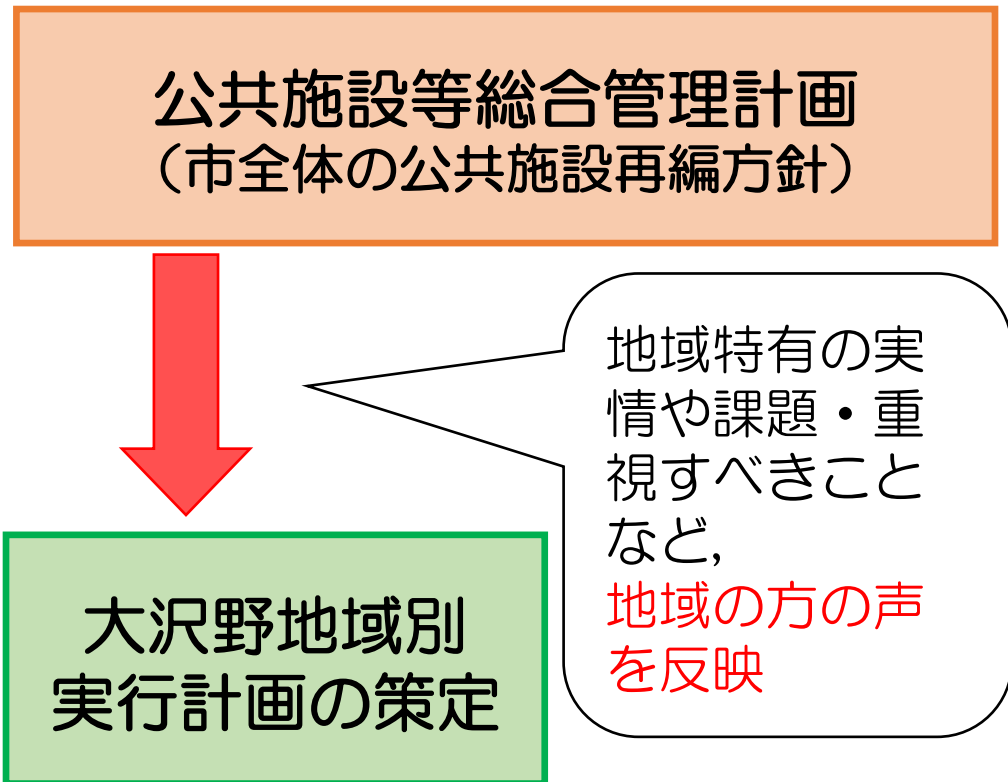
2060 (H72年)
12,240人

地域の皆様と、将来の公共施設の配置や あい方について考えています。

■リーディングプロジェクト



■地域別実行計画



建替えが必要な「行政サービスセンター」や、廃止する「文化会館」などの施設を対象として、公共施設の適正配置に向け、マネジメント全体を円滑に進める上で**核となり先導的な役割を果たす複合施設を整備するプロジェクト**を考えています。

14地域それぞれの地域生活圏域にある「地域・地区」を対象圏域とする施設について、**住民の意見や地域の課題を踏まえ、地域の公共施設の再配置整備方針（案）を策定します。**

■大沢野地域にお住まいの方をメンバーに迎え、ワークショップを進めています！



これまでのワークショップのご意見をもとに 大沢野地域の公共施設再編方針(案)をつくりました!

(1)

拠点となる施設等(一部抜粋)

①地域の公共施設再編の 基本的考え方

大沢野地域においては、今後も国道41号沿線にある大沢野地区、大久保地区に人口の集中が続く見通しです。

本地域での公共施設の配置についても、大沢野地区・大久保地区に集中的に配置を行い、それ以外の地区は、防災安全性の確保や地域コミュニティの維持などに必要な最低限の機能を残していくことにします。

また、下夕北部・下夕南部地区については、距離的にも近く小学校区が同一の細入地域にある公共施設の利用も視野に入れるなど効率的な利用を検討します。

この部分は「リーディングプロジェクト」で整備する複合施設のことを述べています!



公共施設の管理・配置について、これからは地域ごとにメリハリをつけるということ、合併前の旧町村の枠組にとらわれず、市として効率的な配置にすることを掲げています!

②優先的に取り組むべき施策

大沢野地区の行政サービスセンター敷地、文化会館跡地のエリアにおいて、老朽化した公共施設の建替えを契機として、公共施設の複合化による集約を行います。

地域の方が便利に利用できる場を確保するとともに、多くの人が集まって新たな活動を創出し、地域の活力を高めていくことを目指していきます。

①地域コミュニティの維持

・一定の人口に応じ、集会施設など人の集まることのできる空間を地区ごとに確保する。

・建物の所有にはこだわらず、学校の余裕教室や空き家の活用など、空間の形態は柔軟に考える。

②地域の活性化

・複合施設にイベントや商業活動のできる場を整備することにより、地域を盛り上げていくことを目指す。

③文化の振興

・文化コンテンツを伝承・発展する場として、地域の中心に複合施設を整備する。

・生涯学習センター、公民館、図書館の機能を再編し、多様な方々が集まることのできる拠点づくりを目指す。

④少子化対策

・子育て環境の充実を図る。子どもの数に応じて、施設統廃合を進め、機能が集約された場でサービスを提供する。

・複合施設の中に、子育て支援機能の導入を検討する。

⑤利便性の確保

・駐車場の確保、バスや鉄道などの公共交通機関により、アクセスのしやすさを確保する。

⑥安全性の確保

・集会施設や学校、空家、その他の公共施設のうち、安全なものを避難場所として指定し、避難拠点を確保する。

・災害時にインフラ等を守る部署が配置されていることから、庁舎は災害に対しより堅牢なものとし、災害時の指令発出や情報集約等を担う機能の確保を目指す。

⑦財源の確保

・利用ニーズが少なくなった施設の複合化や、建替え際の面積の縮小についてはやむを得ないこととする。

・今後は専用のハコモノにこだわらず、既存施設の積極利用や、長寿命化を図ることとする。

・管理職員が複合施設の中で横断的に働くことで、必要な職員数を減らしていくことも検討する。

大沢野地域の公共施設の再編方針を7つの視点で整理しています。

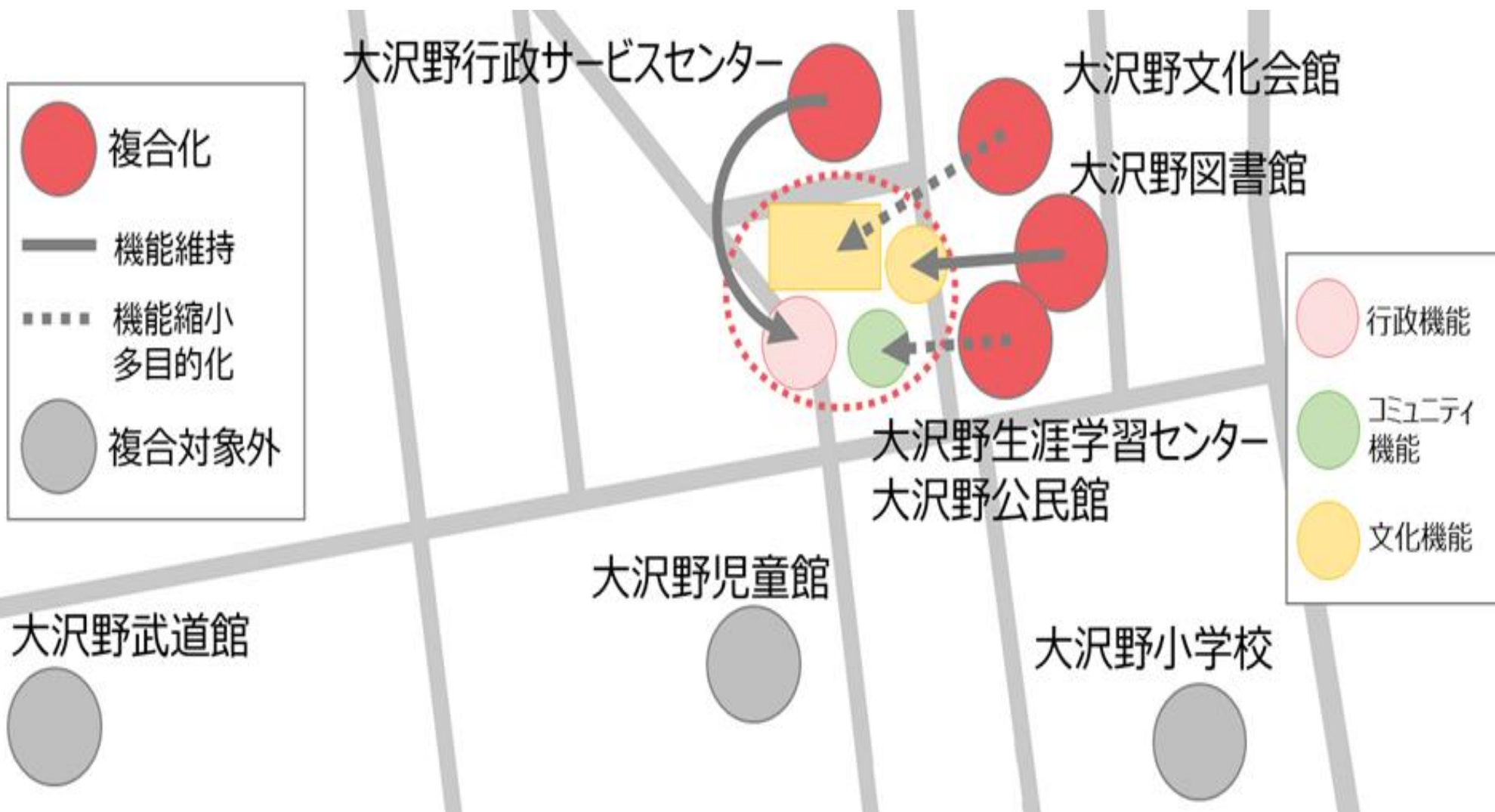
これまでのワークショップのご意見をもとに 行政サービスセンター周辺のリーディング プロジェクト案を4案つくりました！

文化拠点

A
案

【特徴】

- 行政サービスセンターと図書館は機能を維持するが規模は縮小。
- 充実したホール機能を確保。
- 集会機能は最低限確保する。



メリット

- 様々な年代の方が利用する機能を複合化することで、にぎわいや多世代交流が生まれる。

留意事項

- ホールを重視するため、集会機能及び図書館は必要最低限の機能・規模となる。

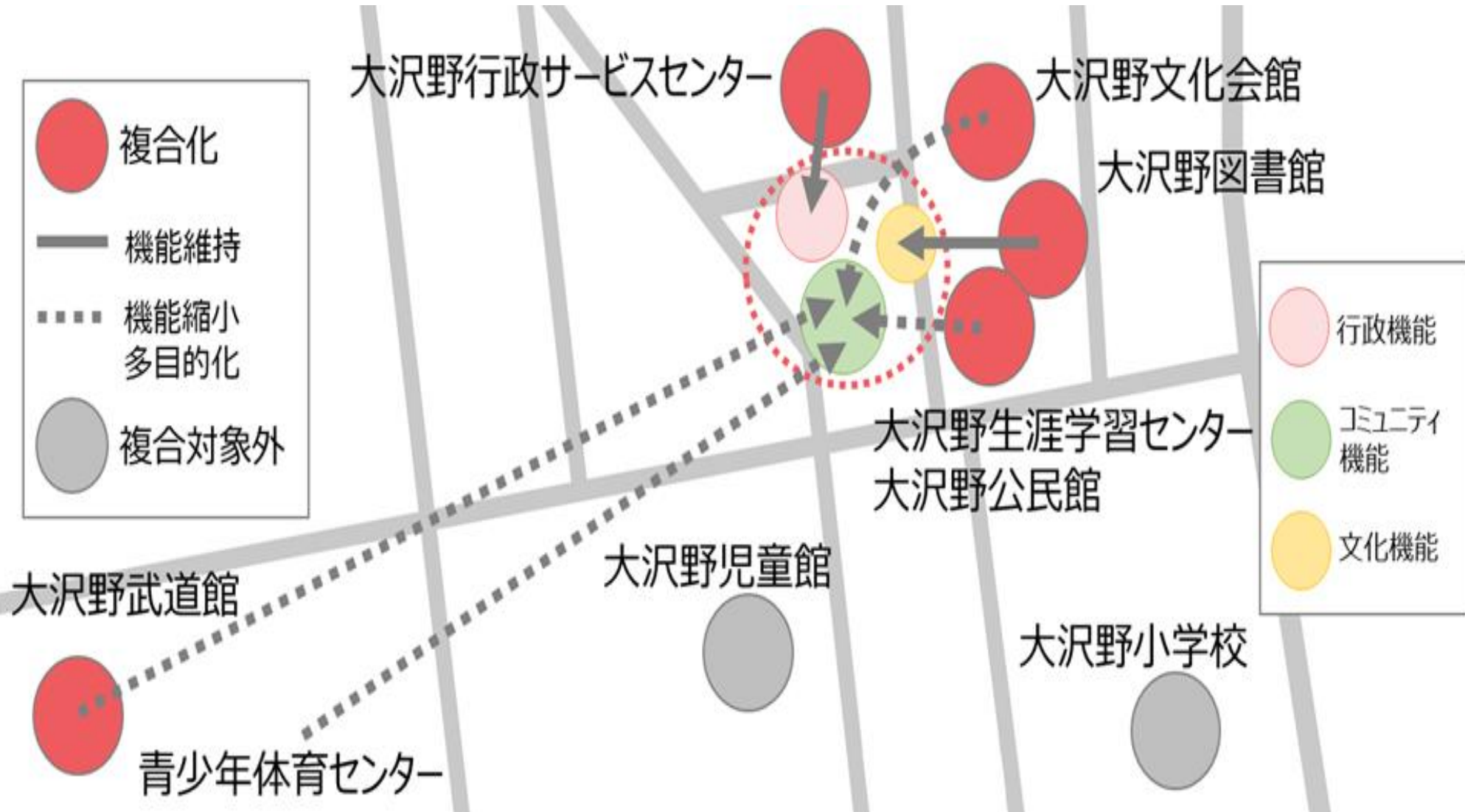
多世代交流拠点



B
案

【特徴】

- 行政機能、コミュニティ機能、文化機能を複合化。
- 行政サービスセンターと図書館は、機能を維持するが規模は縮小。
- 集会施設は集約し、スポーツも可能な多目的スペースを確保。



メリット

- 集会室などのコミュニティ機能を集約するため、賑わいが生まれる。
- 多目的スペースを用意することで、用途を選ばず様々な利用ができる。

留意事項

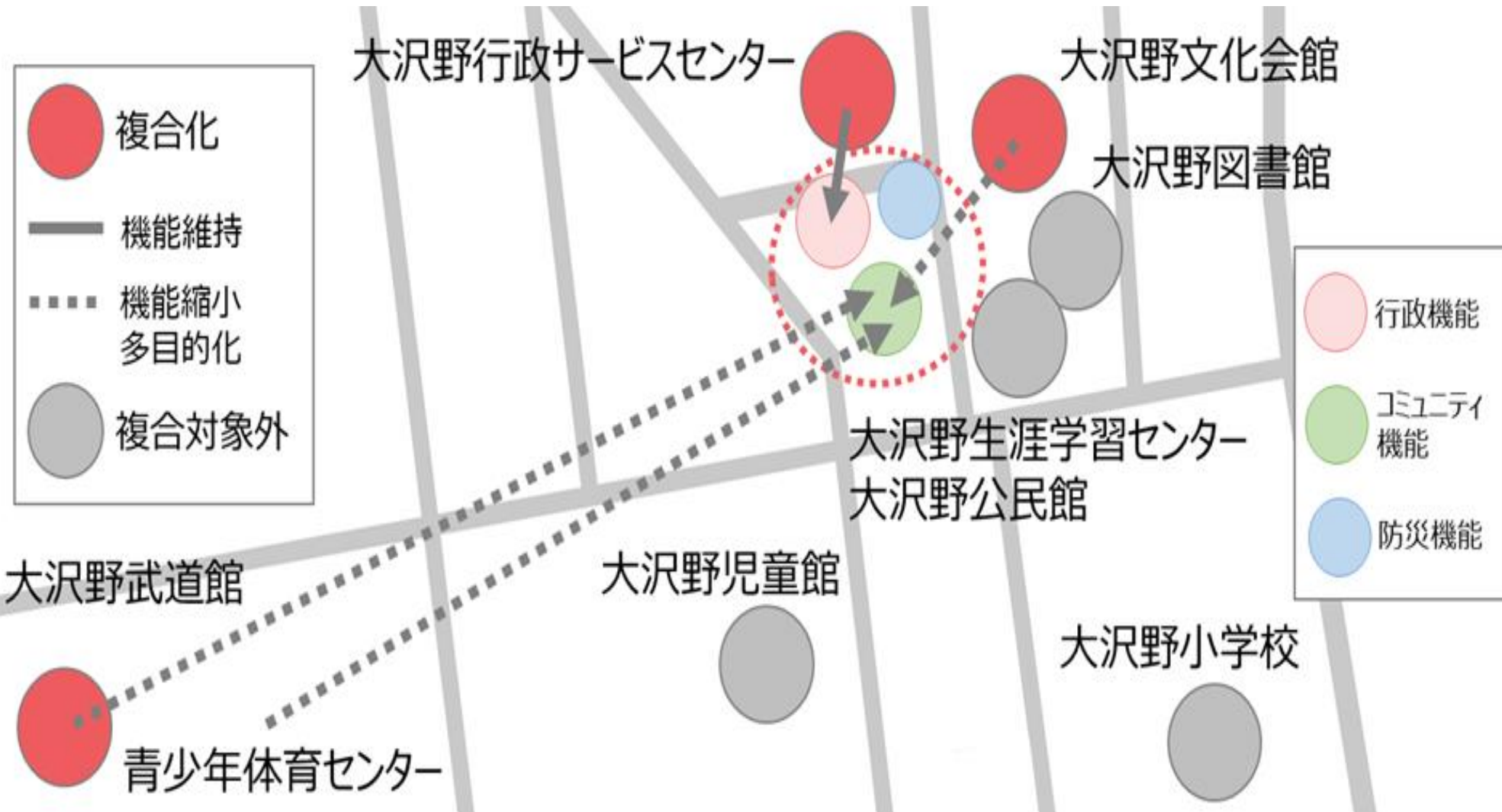
- 旧：大沢野文化会館にあったような固定席のホールは実現しない。

防災拠点

C
案

【特徴】

- 行政機能、コミュニティ機能、防災機能を複合化。
- 行政サービスセンターは機能を維持するが、規模は縮小。
- 災害時にも利用できる多目的スペース（避難所スペースや備蓄倉庫に転用可能）を確保。



メリット

- 行政機能を複合化するため、サービスの質の向上が期待できる。
- 多目的スペースを用意することで、用途を選ばず様々な利用ができる。

留意事項

- 旧：大沢野文化会館にあったような固定席のホールは実現しない。
- 利用者属性が異なる機能を複合化するので、安全性の観点から動線の分離が必要。

子育て支援拠点



D
案

【特徴】

- 行政機能、コミュニティ機能、防災機能を複合化。
- 行政サービスセンターと図書館は機能を維持するが、規模は縮小。
- 児童館を複合化。集会施設は最低限確保する。



メリット

- 様々な年代の方が利用する機能を複合化することで、にぎわいや多世代交流が生まれる。
- 子育て機能を複合化することで、子育て世代の利便性が向上する。

留意事項

- 旧：大沢野文化会館にあったような固定席のホールは実現しない。
- 利用者属性が異なる機能を複合化するので、安全性の観点から動線の分離が必要。